

## 株式会社インタラクティブィ 番組審議委員会議事録

### 1. 開催日時：

令和2年11月11日(水)に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大予防の為、審議は文章による意見交換で行なった。

### 2. 参加者：

委員総数： 7名

参加委員数： 7名

参加委員の氏名：

(敬称略、五十音順)

植田 益朗、音 好宏、片山 哲郎、砂川 浩慶、村上 憲一、中川 幸美、吉岡 忍

### 放送事業者側：

株式会社インタラクティブィ

代表取締役社長 長谷 一郎

取締役 高木 明夫

ジュピターゴルフネットワーク株式会社 <ゴルフネットワーク>

代表取締役社長 前田 鎮男

取締役 兼 編成部長 石上 健治

制作部 番組プロデューサー 石崎 公祐

チャンネル銀河株式会社 <チャンネル銀河 歴史ドラマ・サスペンス・日本のうた>

代表取締役会長 柳 昌之

代表取締役社長 住田 和嘉子

取締役 兼 編成制作部長 秋元 美加

### 事務局：

株式会社ジュピターテレコム メディア事業推進部

木村 秀行、斎藤 弘之、田口 聖美

### 3. 議題

株式会社インタラクティブィで放送する6チャンネルの内、「ゴルフネットワーク」、「チャンネル銀河 歴史ドラマ・サスペンス・日本のうた」の番組内容、編成内容について。

#### 4. 審議内容

①「ゴルフネットワーク」の編成およびオリジナル番組「勝者の条件 池田勇太のマネジメント論 # 4」について、各委員より以下のような意見・質問がなされた。

- 30分番組をラウンド、キャディーとのラウンジトーク、プロとしてのテクニックに分けてテンポ良く見せており、ゴルフファンでなくても楽しめた。
- 勝者の技では、コースのCGに池田さんの同録のコースなどグラフィックで足してもらえればもっと分かりやすく見られた。勝利の条件については、一戦で活躍する人の言葉として記憶に残る。
- 大事ないくつかの要素を語り「気」が大事だというポイントは、プロゴルファーに限らず、全てのスポーツ、また仕事を持つものに共通することだと感じさせてくれたのは良かった。松山、石川と並んで取り上げられることが多かった池田選手が、世界でもっと活躍してほしいと思い、そうすると勝者の条件がより興味深く見られるであろうと感じた。
- ゴルフは「気」だ、相手、ゴルフ、自然に「挑む」強い気持ち、そして、「自分だけのトーナメントにする」マネジメントの極意として語られた言葉は、ゴルフ知らずにもわかりやすく納得できた。
- ゴルフをやったこともなく、また、関心も薄い私にとっては、やや荷の重い審議対象番組であったが、登場する人、制作者の全てが、ゴルフ好きであることが伝わってくる内容であった。
- 池田勇太の能弁なトークには驚いた。流石に百戦錬磨のトッププレーヤーである。幾多の試練や苦難を乗り越えて放たれる言葉だけに、説得力があり納得させられる。  
このコーナーはレッスンとしては高度だが、コーナーとしての狙いが明確で分かりやすい。  
こうしたコーナーや要素がもっと重ねられると、より平易に分かりやすく見られる。
- ゴルフネットワークの視聴者に経営層が多いとすれば、キャディーとの「対談コーナー」から触発される部分は少なかった。単にコースの「攻め方」だけではなく、どのような状況で何種類を選択肢があり、なぜその選択をしたのかなど、深みのある「コースマネジメント論」が足りなかった。これはビジネス・マネジメントにも通じるだけに残念だった。

#### <事業者回答>

※委員からの意見に対し制作サイドから

- 専門チャンネルとしてコアゴルファーを中心に幅広い視聴者層の方々の満足度向上を実現すべく、提供するコンテンツの品質向上と番組編成の改善を図っていきたいと考えています。
- 番組の狙いが分かりにくいという点は重要な課題であると認識しており、ターゲット設定をより明確化し、どのレベルのゴルファーにどのようなベネフィットを提供するかという点を再考の上、今後の番組編成、及び制作を進めて参ります。

②「チャンネル銀河 歴史ドラマ・サスペンス・日本のうた」の編成およびオリジナル番組「氷川きよし祝デビュー20周年 ふるさと博多おもいで旅」について、各委員より以下のような意見・質問がなされた。

- ふるさとを訪ねる氷川きよしさんが心底から喜怒哀楽を明らかにしており、自分自身も楽しんでいる様が画面からみて取れ、好感がもてる番組であった。
- 専属司会者・西寄ひがしのナレーションも温かみがあり、親しき中にも礼儀ありとの好印象を与えるものだった。
- 氷川きよしさんの飾らない優しさが出ていて、スタッフの空気感の作り方が上手い。また、番組制作者として感心したのは、単なるふるさと旅ではなく、彼が大切にしていることや、演歌へのモチベーション等が伝わったことだと思います。
- 祖父とのエピソード、応援する地元レコード店とのエピソード、お煎餅やさんとのエピソード、どれも感動的でありました。氷川きよしの涙姿はそそのもがあり、ファンはその場面に食いついてしまうのだろうと想像できた。
- 演歌の世界で、期待の若手歌手として、デビュー早々にスターダムに駆け上がっていった氷川きよしさんですが、このところ、自身の志向を隠すことなく、メディア露出するようになっていくように感ずる。今回の一人旅でも、自身の悶々とした少年時代を隠すことなく語っている。演歌歌手として成功した氷川さんが、新しいステージを模索しているようにも思えた。
- 確かに、原点回帰、ふるさと福岡への旅で見せる氷川きよしの素の姿は、コンサートや歌番組では見られない。ファンにとっては新たな魅力を堪能出来る番組になった筈である。
- 氷川のロケ衣装もカジュアルで軽快な出で立ちだが、番組自体も飾り気がなく普段着のような作りで、素直に見られる肩の凝らない番組である。
- 氷川きよしの「ふるさと博多おもいで旅」を通して、視聴者それぞれにとってのふるさとと思いついた旅を追体験し、思わず童心に帰ってまさに素になれるような、読後感爽やかな好番組である。
- 番組の制作意図に「氷川の長年のファンも、新たなファンも、彼の更なる魅力を再発見できる番組」とありましたが、氷川のファンではない方も、この番組を見て彼が好きになりました。氷川の人間的な魅力によるところが大きいでしょうが、テレビクルーの仕事も素晴らしかったと思います。

#### <事業者回答>

※委員からの意見に対し制作サイドから

- 当初、氷川さんはあまり福岡にはいい思い出がないと仰っていたために、氷川さんのモチベーションと各処の調整が大変でした。
- チャンネル銀河では毎年氷川きよしの特集編成をしていますが、オリジナルの旅番組を OK 頂いたのは今回が初めてです。理由は、デビュー20周年の節目であること、あの暗い学生時代があったからこそ、今があると思いなおしてくださりご承諾頂きました。また、今回の制作クルーは氷川さんと気心の知れている旧知のスタッフにお願いし、それが奏功した大きな要因です。

以上